



図51 上空から見たケカチ堂遺跡



図50 遺跡の位置  
5万分1地形図「弥彦」

ケカチ堂遺跡 けかちどう 西蒲区福井

ケカチ堂遺跡は、角田山の南麓なんろく、福井集落の東側に広がる畑の  
一画にある。

五〇年ほど前、畑の一部を削ったときに若干の石器が出土した  
といわれるが、詳細はよく分からない。出土した石器も所在不明  
になってしまった。しかし、一枚の写真が残っており、後期旧石  
器時代終わりころ（約一万四〇〇〇年前）の石槍いしやり（図五二―二）  
（四）や、縦長に剥はがされた石の破片（同一）があったことが分か  
る。ケカチ堂遺跡は、新潟県内の海岸平野部に分布する数少ない  
旧石器時代の遺跡の一つであるが、現在に至るまで発掘調査は行  
われていない。

現在、ケカチ堂遺跡のある場所は、平野に向かって扇形に張り  
出した台地の先端付近で、海拔は一〇メートル足らずである。平  
野との比高は二メートルほどにすぎない。しかし、旧石器時代の

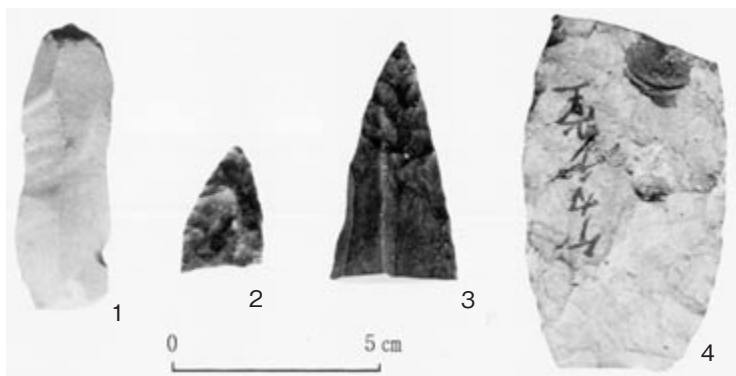


図52 ケカチ堂遺跡の旧石器 金子拓男氏撮影

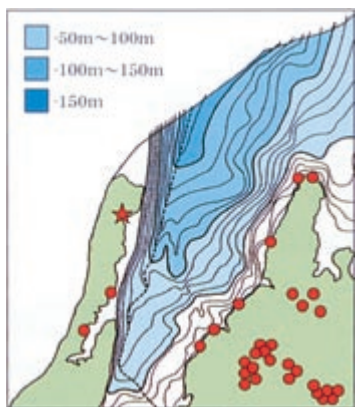


図53 越後平野の基底地形と旧石器時代の遺跡 ★ケカチ堂遺跡

地形は現在とは大きく異なっていた。越後平野は緩やかな谷をなしており、信濃川は弥彦山から角田山の東麓に沿って流れていたらしい。ケカチ堂遺跡は信濃川を間近に見下ろす高台にあったと考えられる。

旧石器時代の人々は狩りをしながら、生活の場を頻繁に移動させていた。ケカチ堂遺跡がある場所は、信濃川の川辺を集団移動するシカなどの草食動物の行動を把握するのに適した場所だったのかもしれない。石器の量が少ないこ

とからすると、この遺跡は狩りの時のキャンプ地として利用された季節的な居住地であった可能性が高い。